

「HSK 季刊わたぼうし」 第49号

発行者:わたぼうし連絡会
発行日:1999年(平成11年)11月22日 '99 秋号

第49号のテーマ 「私の外出体験 Ⅲ」

太陽と空気 貧富の差をつけず
比呂雪

この機関紙は障害のある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、
お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行
しています。

テーマ「私の外出体験 II」

今回はNo.47,48のテーマ「私の障害者の外出」をお読みになられた方々のご意見、感想を通して紙面づくりをしました。対話のできる機関紙を目指し、このような試みをしてみました。いかがでしょうか。No.50は「No.50発行記念号」ですが、No.51より「介護と援助」というテーマで投稿を募集しようと思っております。多くの投稿をお待ちしています。Eメールのアドレスはzen@san9.net

「私の外出体験」にちなんで 地域住民・養護学校教員

この夏のある日のこと、私は娘を迎えに金沢駅へ行った。列車到着まで15分間ほどの余裕があった。コンコースには海産物を扱う出店があり、『この間の品物があるかな?』と、立ち寄った。その横を盲導犬を連れた女性が西口に向かって通り過ぎた。じっくり品定めをして回ったが、目当ての品はなかった。ふと見ると、さっきの女性が構内の縁に沿って行きつ戻りつしている。犬もキョロキョロしているふうに見えた。どうも様子がおかしい。

近付いて、「どちらへ行こうとしていらっしゃるんですか?」と尋ねた。彼女は「東口(中央口)の方へ行きたいんですけど……。」と答えた。「じゃあ、反対方向だわ。私が案内しましょう。」と言って、『盲人をエスコートする時はこうだったな』と思い出して、「肩に手をどうぞ」と続けた。すると、彼女からは「いいえ、ゆっくり歩いて頂ければ(犬と)一緒について行きます。という返事が返ってきた。なるほど、こんな場合は犬をエスコートすれば良いのか。」と反省させられた。

歩きながら彼女は、「よく来ているんですけど、暑さのせいか、(犬も)迷ったみたいです。」と言った。たしかに犬は心なしか足どりがおぼつかなかった。そこで、「どこまでご案内すれば大丈夫ですか? 娘の乗った列車の到着まで10分間ほどありますから……」と言うと、「済みません。じゃあ、全日空ホテルの前までお願いします。」とのこと。犬は私と彼女(主人)が話している関係から察知したのだろうか、安定した足どりで私の後ろをついてきた。

全日空ホテルの前で別れ、戻りながら思った。『盲導犬だって、生身の動物だ。時には主人の期待に添えないこともあるだろう、そんな時はやっぱり人が頼りだわな。』と。

今の私にはごく当たり前の行動だ。障害児学校に勤務し、盲導犬を連れた全盲の先生方ともお付き合いがあるからだ。でも、ずっと普通小学校に勤務していたら、こうも簡単に援助できたかどうか。また、到着時刻ギリギリに金沢駅に着いていたら……と考えると、う～ん。自信はない。

「私の外出体験Ⅰ・Ⅱ」を読んで

地域住民・肢体障害

私の外出体験Ⅰ・Ⅱは、それぞれに思いのある外出体験であり、こちら側に伝わってくるものがありました。

自分自身は首の骨を折り車いすの生活になってから9年がたちますが、少しずつ社会が変わりつつあるようです。以前に比べて、「お手伝いすることはありませんか」とか「大丈夫ですか」という声をかけられる回数が、年々増えてきました。少しずつ意識が変わってきていて、この和がさらに大きく広がることを願っています。

石川の外出にあたっての環境は、ようやくスタートしたところだと言ってよいでしょう。外出環境は、移動やトイレの問題、アクセス問題、介助者問題などたくさんあり、すべてが一度に良くなることはありえません。問題点や課題等を解決するためには、障害を持っている人たちが積極的に社会に対して発信していかなければならないと思います。

基本的に、みんなの行きたいところは自分たちも行きたいし、そこにはいつでもどこへでも行きたい時間に行けるようにしなければならないのです。また、制限などの付いた条件があってはならないのです。

障害を持っている人たちが外出するためには、いろいろな面で大変な部分があり、おのおのが工夫し、手段を尽くさなければなりません。せっかく与えられた人生を楽しく有意義に過ごすためにも、手段を尽くし外に出て楽しむべきで、そのための環境整備や情報交換も必要不可欠です。

私たちは、みんなが何の心配もないような、あたりまえに外出できる社会を造りたく、そのための努力は惜しまないでいきたいと思っています。

「私の外出体験」を読んで

地域住民・団体職員 (民間救急サービス七尾営業所所長)

日頃より街路で車いすに散歩や買い物をしている人をよく見かけるようになりましたが、『バリアフリー』という言葉が叫ばれ確立しつつも、言葉ばかりが先行してしまい、まだまだ皆さんが体験しているとおりに、公共交通機関等も含め、受けられるサービスに限りがあり充分とはいえません。

そんな中に「外出してみよう。」とする皆さんに勇気や力強ささえ感じてやみません。一生懸命段差を一段一段クリアしようとする者、なるべく一人で買い物をしようとする者、よろけながら車いすで自分の目的地まで行こうとする者まで毎回感動です。

いまはまだ不十分でも、間違いなく時代は福祉に目が向いた社会の到来です。A J I 金沢車いすセンターのHさんの言葉を借りるなら「〇〇さん、今バスに乗ってるんだよ。」と、いまは亡き友に……。とありました。深い感銘を憶えました。

たくさん先の先人先輩たちがいろんな所に提案をし「今日」があります。間違いなく時代は変わります。みんなの未来ですから。また'99夏号の、編集者よりのコーナーで、「私たち障害者が外出することは重労働な事です。だからといって閉じこもっていても周囲は変

わらないと思います。」さすが善ちゃん（笑）

私も今回のテーマに関わり、改めて私たち健常者は「何を出来るのか」「何がしたいのか」と考えさせられました。

最後にわたぼうし編集の皆様はじめ、愛読者様の今後ますますのご活躍とご健勝をここから祈念いたします。

七尾市の石川交通が介護タクシーを導入

車いすの方、高齢の方へ「やさしさ」と「おもいやり」を介護タクシー導入しました。乗降しやすい新型介護タクシーをどうぞ。

ホームヘルパー有資格乗務員が対応します。安心しておまかせ下さい。皆様からのご用命をお待ちしています。

タクシーの石川交通・七尾営業所
0120-03-3001

12月3～9日は障害者週間 12月9日は「障害者の日」です。

<趣旨>

政府は、昭和56年の国際障害者年に12月9日を「障害者の日」と宣言し、記念の集いを中心に啓発広報に努めてきた。その後、平成4年に国連は、12月3日を「国際障害者デー」と宣言し、加盟各国に対しこの日の挙行を要請している。

また、我が国では平成5年12月3日に交付された障害者基本法に12月9日を「障害者の日」とすることが明記された。このような最近の傾向を踏まえ、国際障害者デーであると同時に障害者基本法の公布日である12月3日から「障害者の日」である12月9日までの1週間を障害者自らの自立と社会参加への意欲と国民の障害者問題に対する理解と認識をより一層高めるための運動を展開する期間とする。

<強調テーマ>

- (1)ノーマライゼーションの理念の普及
- (2)障害者の「完全参加と平等」の実現
- (3)福祉のまちづくりの推進
- (4)障害者の日(12月9日)の周知
- (5)「アジア太平洋障害者の十年」(1993～2002年)の周知

ボランティア団体を紹介して下さい。

福祉活動を行っているグループ、ボランティア団体の紹介して下さい。活動内容、紹介文を600～800程度にまとめ写真等を添えてお送り下さい

今秋、南陽園に療護施設を開設

自然と環境に恵まれた南加賀に身体障害者の方々の生活空間ができます。

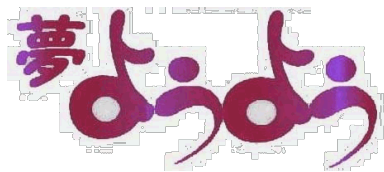
この10月に、加賀市潮津町にある昭和50年8月に開所した重度身体障害者授産施設「南陽園」(セルプ・なんなん)に石川県内4番目の身体障害者療護施設(夢・ようよう)が開所します。

身体障害者療護施設とは？

身体障害者手帳を持ち、常時介護を必要とする18歳以上の方に、入所あるいは通所していただき、健康の維持・増進を図るとともに、心の豊かさと生きがいのある生活を送るための援助サービスを行います。

石川県内の身体障害者療護施設

- ・ 陽光園(小松市)昭和48年5月開所
- ・ 青山彩光苑(七尾市)平成元年4月開所
- ・ 金沢湖南苑(金沢市)平成8年4月開所
- ・ 南陽園(加賀市)平成11年10月開所



居心地の良さと幅広い機能面が快適な生活を支援します。

利用者本位・自立支援

- ・ 隣接する南陽園(セルプ・なんなん)と相互に福祉機能の利用とサービスが可能になります。
- ・ 各階層別に居住空間をグループフォーム化して、アットホームな環境を創造できます。
- ・ 全居室が南側にあり、日当たり、眺望、風通しが良好です。
- ・ 「夢ようよう」の一番のウリは、最上階の展望浴室。柴山潟、白山連峰、天気の良いければ日本海まで見渡せます。

施設の概要

- ・ 建物構造／地上5階建て(正面入口は3階)
- ・ 延床面積／約3,980㎡
- ・ 居室数 2人室が22室、個室が13室



夢ようようのサービスメニュー

①入所利用

療護施設 52名(ALS2名を含む)

②ショートステイ(定員5名)

介護をしている方が何らかの都合で介護ができない場合、一時的に入所利用できるシステム。

③デイ・サービス (定員15名)

在宅の方が通所によって、食事や入浴などの各種サービスを受けるシステム。

「セルプなんなん」の福祉サービス

※セルプなんなん・社会就労センター

(入所施設・定員86名) 身体に障害を持つ方が働く施設です。

※セルプなんなん 社会就労センター

(通所施設・定員19名)

身体に障害を持つ方はもちろん、知的・精神障害者の方も通えます。もちろん送迎可。)

セルプなんなんの作業科目

リネン科

旅館の浴衣やタオル、老人施設、病院などのシーツや包布などの洗濯、仕上げ。

ダイアパー

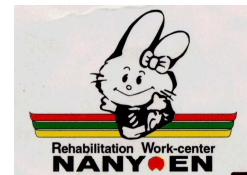
老人施設や保育所のオムツのクリーニングやリース。

タカラ新生科

(株)ダスキンから委託されたマットやモップの修理。

クラフト科

木工製品やアートフラワーなどの小物製品販売。



行 事

入園者の福利厚生として、毎年国内旅行を、さらに選抜して海外旅行も実施しています。行事も頻繁に行い、全体研修会、ビアガーデン、クリスマス会、もちつき会など盛りだくさん。



ハーフケアハウス「ふれあい八汐ホーム」は、「自分の家に住みたい」という利用者の素朴な願いから始まりました。このハウスの特徴は、施設というよりは一般住宅に近い、よりノーマルな設計思想を基本とし、さらに、バリアフリーの考え方を取り入れ、企画当初より利用者が参加し、重度の身体障害者の方にも安心して生活できるよう、細部にわたって配慮されています。



南陽園への連絡先

〒922-0411

石川県加賀市潮津町八汐ヶ丘1-1

社会福祉法人 南陽園

電話 0761-74-6613

FAX 0761-74-6680

ホームページ

<http://www3.nsknet.ne.jp/nanyo/>

Eメール

nanyo@po3.nsknet.ne.jp

※上のホームページ、メールアドレスは1999年（平成11年）10月現在のものです。

新しいホームページは検索をお願いします。

私のホームページ

このコーナーは福祉関係の情報を発信している方々のホームページを紹介します。あなたのホームページの紹介を600～800字程度にまとめ、表紙(トップページ)の画像ファイルを添えて送り下さい。

ホームページ Woodpecker

アドレス <http://w2282.nsk.ne.jp/~woodpecker/>



初めて講演をした時の『講演文』と少しの絵を載せたホームページを、ある主婦の方がボランティアで作成と管理者代行をして頂いたのです。

しかし、その頃はパソコンを持っていなくて内容を印刷して頂いてから初めてホームページの存在を知ることにもなったのです。

それから、ワープロで打った文章を更新して頂くようになってからパソコンの世界と出会う、きっかけの場となったのです。

その後、羽咋市ボランティアセンターの方達が「自立の第一歩」として「パソコンを購入して世界を広げよう」という有り難い話を持ってきたのです。そこで、自立というからにはパソコンと周辺機器に掛かる資金を稼ぐのに「絵葉書とカレンダー」を販売することにしましたのです。

手を使わずに頭と息でパソコンを操作する“HeadMaster”(入力補助装置)を、使用することで、自由にネットの世界を楽しめる環境を整備して頂いたのです。

さてさて、僕のホームページのタイトルになっているWoodpeckerというのはワープロのキーボードを口にくわえた棒でコツコツと打っている姿を見た人から「キツツキみたい!!」と言われたことから名前が決まったという簡単な理由からです。

ホームページの表紙になっているイラストとタイトルの文字は自分の口でペンをくわえて書いたものなんですよ。“壁紙”もボランティアで作成の協力をして頂いて“手作り”という感じのホームページになっています。

Woodpeckerを見て頂いて一人でも多くの方が「可能性への挑戦」を信じて実行する勇気が湧いてくるようであれば幸いです。



あなたのホームページを紹介して下さい。

ボランティア活動、福祉情報、障害者の生活情報、障害をお持ちの方の絵画、詩などの作品を発信している非営利を目的としたホームページを紹介して下さい。紹介文を600～800程度にまとめてお送り下さい。

みんなの広場

オリーブの会について

地域住民・主婦（オリーブの会代表）

はじめまして。

私は七尾市に住むM.Bと申します。この度ご縁がありまして、皆さんとこのわたぼうしを通じて、お近づきになることができましたこと、心から嬉しく思っております。実は今、まるでお見合いの席に座っているかのようにドキドキしております。（お見合いしたことはありませんが・・・）

皆さんとのひとときの中で、ボランティアをもっと身近に感じていただければと。ほんの少し願いを込めまして書いてみたいと思っております。どうぞ、お手柔らかにお願いいたします。

私は昨年秋に結成されたボランティアグループ「オリーブの会」で、53名の心の友と共に、ふれあう暮らしを応援しております。

皆さんも、感じていらっしゃると思うのですが、「ボランティアって何？」というところは非常にあいまいなところもありまして。一言では語れない部分です。

このわたぼうしでも、様々な方がご紹介されてきたと思いますが、（Sさん。ひまわり号のYさん、お元気ですか？）今日は、私の心の中をつぶやきということで、というか聴き流す……いや、見逃してやっていただけたらと思います。

まず、私にとって、ボランティアは恋愛のようなものでいて理屈がありません。会いたいから会いに行きます。必要とされるから力になりたいと思います。心が動くから体が動いてしまうのです。

しかも、好きな相手には喜ばれてこそ、会いに行ったかいがあるというものです。ですから、喜んでもらえるために、私なりの精一杯で考えながら行動しております。

ところが、これも恋愛と同じで、私の思いが伝わるかということ、なかなかそうはいきません。かえって迷惑がられたり、お叱りを受けたこともありました。また。望まれた時に、すぐ飛んでいけないこともあるので、悔しい思いもしております。けれども、私の心の中で、会いたいという気持ちは変わりませんし、いつも気になっているようです。なんだか、遠距離恋愛している相手にコメントしているようになってきましたが、私が強く皆さんに伝えたいのは、自分の「こうして欲しい」「こうしたい」ということを伝える努力を共にしていきましょう。ということなのです。

分かり合える時というのはまれです。だからこそ、分かり合えた時の喜びは格別です。『あなたと、そして大切な人との願いを叶えるための、はじめの一步はあなたの一步から』

次回も登場できるということで、今日はこの辺で失礼します。最後に、昨年の障害者フェスティバルななおで、私とまきちゃんのが歌った歌をご紹介します。皆さんに取りまして実り多き秋となりますように。それでは、また。

君の命にありがとう

作詞 まこちゃん

作曲 まきちゃん

心の中を 見つめてみよう
きっと見えるさ 君だけに見える
君の心を 伝えよう
生きている 僕らは生きている
会えて良かった 本当に良かった
生きている 僕らは生きている
会えて良かった 本当に良かった
君の命に ありがとう ありがとう

五体不満足を読んで 匿名希望

「良かったよ、感動したよ、ぜひ読んでみて」と進められたのが、「五体不満足」。著者乙武さんの生き方に感動を覚えた読者も多く、ベストセラーになったようです。障害と戦いながら働き、自立しているメンバーたちの座談会を読んで、障害者が自分の生活態度に基づいて一冊の本を書いた、というだけで話題になるのは、それだけで社会が障害者を特別視している現れじゃないかと言っていた。

乙武さんは先天的な障害だから、「00ができない」という意識はなく、自分なりの方法でやるようになって、家庭や学校ではあまり悩みを感じないのかも知れませんね。そのところが、逆に、読者にとって好都合に働いているのではないのでしょうか。

「障害者」というだけで、ひとくくりする、パターン化した反応がありますが、頸椎損傷、脊椎損傷、脳性麻痺、とそれぞれ障害も別ですし、持っている悩みも違うはずです。彼の場合は、外見がすごくインパクトありますけど、車いすに座っていても、手も足もあるので、普通の人にしか見えない。しかし、実際には首から下がすべて障害がある。

先天的に手足を切断した人は、幻肢痛(存在しない部分に痛みを感じる)がなくていい、脊椎損傷のほとんどの人には、排尿、排便の障害がある。そうすると自然に外出したがいなくなるのです。また、下半身の感覚のない部分に傷を作ると、褥瘡になりかねないので、常に気をつけなければなりません。褥瘡のことがなければ、車いすでも時間に余裕ができ、行動範囲が広がります。障害の重さは、外見だけでは判断できない。

私自身、特に大きな感動はありませんでした。彼は、比較的身体能力が高いため、何でも五体満足の人と同じようにするんですね。でも、トイレやお風呂の介助は必要で、学校にいるときは誰が介助をするのだろうか、床に降りて階段を上がったり、サッカーや野球をする時など、靴を履いているわけでもないし、どうなっているのだろうか、どう保護してあるのだろうか、と、素朴な疑問がありました。自分自身のことを身体障害者ではなく、身体的特徴と言っていた。なかなか的を射ている。だとすればこれは、これは個性なのかも

知れません。

後に、TV「サンデーモーニング」に出演しているのを見ました。本を読んだときとは違って印象が良かった。"さわやか"でした。関口弘の質問やその他の問いかけにも、あがることなくスラスラと答え、ちゃんと話す人の目を見て話すし、聞く感じが良かった。TV「徹子の部屋」でも"さわやか"でした。こういう人の、お嫁さんになる人はどんな人だろうと、ふと思いました。また、子供たちと床に降りてバンバン跳ねたり、サッカーをしてみたり、ボールをキャッチしているところもありました。大人は障害者を見て「かわいそう、こっちへ来なさい」と言いますが、子供はどうしたのだろうと興味津々でした。以前、私が車いすでリハビリに通っているとき、私を見て「かわいそうに」という声が聞こえてきたことがあります。そんなふうにはしか見られない、そちらの方がかわいそうと、思ったことがあります。まだまだ、このような人たちはいるけれど、子供はもっと素直で、ふれあったり、話したりすれば、すぐに溶け込んでくれるでしょう。多くの子供たちと会ってみたいと言っていました。

一番に言いたいのは、「普通だよ、みんな変わらないよ」ということでしょう。それは障害者みんなが持っている気持ちだと思います。

五体不満足

著者：乙武 洋匡 出版社：講談社 定価1,600円(税別)

シリーズ『介護保険を考える』①

「ハート・サイド・ネットワーク」 運営委員・須戸 哲

先日、石川県障害福祉課から「平成11年度身体・知的障害者介護支援専門員研修の実施について」という書類が、作業所に届きました。いよいよ来たなという感じで作業所の代表の中村氏に相談して、出席することに決めたのですが、障害者も介護保険の波に飲み込まれるカウントダウンが始まっていると実感させる出来事です。

第1回は介護保険が厚生省の関係者が語る「当事者主体・自立・自己決定」というすばらしい言葉を実現してくれるのかという事を考えてみます。この三つの言葉は現在始まりつつある高齢者の介護保険で、すでに声高らかに叫ばれています。ということはいま、すでに始まっている高齢者の介護保険の認定作業や、その後の動きを見れば、自ずと見えてくると思います。そこに少し先立って意見を述べるので、ある部分は私のこうなるだろうという予想も交えています。

ハート・ワーキング・センターのセンター長になる前は小松市の特別養護老人ホームに1年、老人保健施設に5年勤務し、そのほとんどを在宅介護支援センターの相談員として過ごしています。ケア・マネジャー(介護支援専門員)が認定され、研修が始まるまではケア・プランは在宅介護支援センターの相談員が担当していました。介護保険が始まる前も高齢の方の生活と介護を支えるためにケア・プラン作りはされていましたし、そのケア・プランに沿って在宅の高齢者の方は生活をしていました。当然、そのための研修も多くさ

れていました。そこで、私がおかしいなと思ったのは当事者主体と言いながら、当事者の姿や思いが全くない中で、ケアプランを作る研修をしていたことです。介護保険でのケア・マネジャーの研修でこのことが改善されているのか疑問です。もう一つ問題点を感じるのは短い期間で大量のケア・マネジャーを養成研修していることです。いままで、高齢者やその家族の生活相談に関わったことがない方が数日間の研修で「当事者主体・自立・自己決定」という大前提がある中でのケア・プラン作りができるのかというと、おそらく「No」と言わざるを得ません。これがいま動き出している高齢者の介護保険に対する不安です。もちろん、これだけではなく、不安はまだいくつもあります。

それでは障害者に対する介護保険を考えてみましょう。山田昭義氏(AJU自立の家・常任理事)は著書「介護保険には任せられない」(風媒社刊)の中で、ケア・マネジメント論のリーダーといわれる大阪市立大学の白沢政和教授の「1人のクライアントに対し、優秀なケア・マネジャーが作るプランは、誰が作っても同じものができる」という論に対して、次のように反論しています。「例えば、僕という重度障害者にケア・マネジャーが来て「あなたの生き方はこれだ」と決めつけられる。私が異議を唱えても違うケア・マネジャーが来て「やっぱりこれだ」と決めつけられる。私の生き方は一つしかないのか」と。この教授の研修は石川県では高齢者向けのケア・プラン作りで、何度も大阪から来て行われています。私も一度、研修会場でこの考え方に異議を唱えたが、教授に無視されています。「あなたの生き方はこれだ」と決めつけられる介護保険が、高齢者の中でスタートしています。そしてすぐに、障害者もこの介護保険の世界で、生き方はこれだと決めつけられる時が来ます。山田氏の同じ著書の中で、自分が直接、話をしたケア・マネジメント論の先進国イギリスの当事者の話として次のようなことが紹介されています。「ケア・マネジャーは行政の手先であり、行政の都合で働き、私たちの立場で働く人は本当に少ない」「我が国に置いてコミュニティケアは失敗だった」「障害者がものを言えば、いつもいつもニーズ、ニーズと言われアセスメントされる」。ケア・マネジャーが行政の手先とは言い得て妙な意見です。おそらく、ケア・マネジャーは自分が行政の手先とは露とも思っていません。しかし、実際はその役割を担うことになりそうです。第2回でこのことの意味を詳しく説明します。

本の紹介

花の詩画集の最新作 「あなたの手のひら」

星野 富弘 著 定価(本体価格1,400円+税)・発行所：借成社

この本の著者の詩に現れてくる「あなた」という言葉を著者の詩の半分以上に見ることができる。単に草、花を描き、そこより教えられる以上の「あなた」をそこに見ているのです。それは著者を励まし、生きる支え、力となっているのです。そして著者もこの「あなた」を何よりも宝としています。こんな誇りかけることのできる方を持つことは、人として、人格あるものとして、今、物質主義から心の時代といわれる戦後の流れの中で、人々が求めているものをこの著者は得ています。そして物が与えることのできない幸い、美しさ、力を与えてくれることを証言しています。だから人々はこの著者の本に惹(ひ)かれる。

この本の題となっている『立っていても、倒れても、ここはあなたの手のひら』といえる方と包まれている豊かさは、今この時代の渴きを満たしてくれるものと思えます。

ボランティア団体を紹介して下さい。

福祉活動を行っているグループ、ボランティア団体の紹介して下さい。活動内容、紹介文を600～800程度にまとめ写真等を添えてお送り下さい。

編集後記

今年の夏は異常な暑さでしたが、みなさんの体調はどうでしたか？

さて、来年4月より始まる介護保険は5年後の見直し時に障害者にも対象となってくると予想されています。その点について、須戸哲さんに解説していただくことになりました。何かの参考にしていただければ幸いです。

次号は「HSK季刊わたぼうし」は、No.50発行記念特集号です。15年間の歩み、関わった人のメッセージなどを掲載する予定です。(Z.0)

表紙の川柳の解説

今回より表紙に使ってもらっている句についての説明、それにまつわるエピソード等を気楽につづり、加えて川柳の持つ魅力を点描的に書いてみたいと思います。

先ず「川柳」と「俳句」の違いは？ というと字数は五七五の17文字と同じですね。大自然をとらえ、それに季語を加えたものが俳句。調刺、ユーモア、ひゆ、達観等を詠み、人間臭さを充分に持ったのが川柳であろう。(比)

次号はNo.50発行記念特集号です。